



**基本理念** この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

🌸🌸 「新任医師のご紹介」 🌸🌸



**福森 崇之 / Fukumori, Takayuk**

4月から新潟県のさいがた医療センターより赴任した福森と申します。気候や景色が美しいだけでなく、人柄も温かい沖縄が学生時代から大好きだったので、今回、琉球病院で勤務できることを嬉しく感じています。患者さんの回復の一助となれるように精一杯努めてまいりますので、どうぞよろしくお願ひします。

**柿本 彰 / Kakimoto, Akira**

出身は山口県、三重大学卒業、初期研修は北海道で過ごし、4月から琉球病院で働かせていただくこととなりました。

まだまだ駆け出しですが、沖縄の精神科医療に貢献できるよう精一杯頑張ります。よろしくお願ひします。



**渡慶次 綾香 / Tokeshi, Ayaka**



今年度より「子どものこころ専門医」の研修をさせていただくため非常勤として勤務しております渡慶次綾香と申します。患者さんが少しでも日々を過ごしやすくなるよう、サポートできればと思っています。不慣れな点も多くご迷惑をおかけすると思ひますがよろしくお願ひします。



● 地域医療連携室だより

精神保健福祉社 池間 ゆかの

琉球病院では精神科成人外来とアルコール依存症外来の初診について、診察当日に長時間お待ちいただく可能性がある為、電話での事前予約をご案内しております。また、こども心療科外来の初診については、現在診察まで約5ヶ月間お待ちいただく状況となっておりますが随時お電話にて受付を承っております。

その他、クロザピン治療や認知症など様々な疾患をお受けできる診療体制を整えております。受診や入院のご相談はお気軽に地域医療連携室までお問い合わせください。



院長



ふくじ やすひで  
福治 康秀

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。日本森田療法学会理事。日本病院・地域精神医学会評議員。琉球大学医学部 臨床教授。

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・クロザリル外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数

353床

- ・精神 151床  
(一般精神・クロザピン専門・精神科救急)
- ・アルコール依存症 44床
- ・児童思春期ユニット 4床
- ・重症心身障がい 90床
- ・医療観察法 37床



路線バス

那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分

自動車

那覇市から40分沖縄自動車道道金武インターから名護向け5分

お問い合わせ

時間 **8:30 ~ 17:15**  
(土・日・祝日・年末年始以外)  
TEL **098-968-2133(代)**  
内線 **231・234**

地域医療連携室(直通)

TEL **098-968-3550**  
FAX **098-968-7370**

## 治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医長 木田 直也



## クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では2010年2月からクロザピン（CLZ）治療を開始し、全症例数は延べ414例になりました。2024年4月のCLZ導入数は3例で、このうち2例は他の精神科病院に入院中の紹介患者さんでした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために、隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も消失、もしくは軽減し、隔離や身体拘束は、ほとんどの症例で解除できています。週に3回のCLZ専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。当院でのCLZ治療や沖縄県での地域連携の実際については、ノバルティスファーマ社の医療関係者向けサイトのクロザリル/クロザリル適正使用の流れ (<https://www.drugs-net.novartis.co.jp/dr/products/product/clozaril/point/>)でも動画が公開されていますので、ご参照ください。

## こども心療科

心理療法士 我喜屋 良行

こども心療科では、ADHDに特化した内容のペアレントトレーニングプログラム「ウェル・ペアレント・ジャパン（Well Parent Japan: WPJ）」を実施しています。WPJは、研究で親への効果が実証されているプログラムで、その実証研究を長年行ってきたOISTの島袋静香博士が2024年度の文部科学大臣表彰を受賞されたことが、4月のニュースにも取り上げられました。社会的にもADHDの特性がある子どもたちに配慮した関わりや、(すでに)がんばっている保護者の皆さんへの支援の重要性が認められてきたことを感じ、そのプログラムの普及に関わっていることを嬉しく思っています。これまで当院で実施したグループでは、参加者のみなさんそれぞれに、お子さんへの関わり方が変わってきたり、自分自身のストレス解消を意識するようになったり、参加者同士の交流も増えるなどの変化がみられました。

今後も継続して、グループの実施やプログラムの普及に関わり、より多くの方が発達特性のあるお子さんのことを理解してもらえるように、微力ながら尽力していきたいと考えています。

OIST 島袋静香先生 (写真中央) と  
琉球病院にて

## クロザピン治療病棟

東Ⅱ病棟師長 高江洲 美寿々

当院は日本で初めて治療抵抗性統合失調症の治療として、クロザピン薬物療法を開始した専門病棟です。クロザピンは重い精神症状の改善だけではなく自傷・他害、再入院のリスクを低下させるなど、様々な有効性を持つことで近年その治療効果に注目が集まっています。他院からの紹介も多く、病棟医を中心に多職種が協働し、精神症状で困っている患者さんやご家族が安心できる治療・看護を提供しております。

また、クロザピン治療はクリニカルパスを用いて、入院期間6ヶ月を目標に掲げ、約1か月に1回のケース会議（患者さん・ご家族・医師・看護師・PSW・退院先の施設・地域の役所関係者等）を開催しています。患者さん・ご家族を中心に話し合いをしながら、計画的な治療及び積極的な退院支援を進めています。患者さん・ご家族にとってより良い療養環境を整え、地域移行支援に向けて努力して参ります。



## DPAT 活動報告

主任心理療法士 前上里 泰史

## 当院の災害時対応について

新年度始まったばかりの4月3日8時58分、台湾付近を震源とするマグニチュード7.5の地震が観測されました。これに伴い沖縄県本島内に緊急地震速報および大津波警報が発表され、一部交通規制がかかり、高台や高所への避難等対応に追われました。当院のある金武町では、国道沿いの金武 - 石川間は2mの津波が来れば大部分が浸水するエリアです。そのため、山手にある高速道路は交通規制がかかり、出口から出られず立ち往生する事態となりました。

院内では大津波警報発令後9時17分に副院長の指示で災害対策本部が立ち上がりました。外来診療を安全が確認されるまで休診とすること、病棟での業務は通常通り実施すること、来院している患者さんへの対応等、院内職員に指示があり、対応にあたりました。各職場長は、自部署の被災状況を点検し、対策本部に報告をあげました。

警報発令から20分で対策本部が立ち上がり、1時間後には院内の被災状況や利用者の状況について報告が次々とあがりました。対策本部は院長、副院長、事務部長、看護部長が担い、立ち上げや情報収集はDPAT隊員をはじめ、事務職員、看護職員等多くの職員が協働し対応にあたりました。院内の災害対策委員会で取り組んだ訓練や対応が活かされ、円滑かつスピーディに対応することができました。幸い津波はありませんでしたが、災害時対応を確認する良い機会となりました。



## 精神科急性期治療病棟

東Ⅲ病棟師長 照屋 純二

アルコール依存症病棟再稼働して1年が経過しました!!

アルコール依存症病棟に入院される患者さんは、酒をやめたくてもやめられない方が、自分の意志で入院してくる方が殆どです。様々なプログラムを各職種が専門性を発揮して運営し、アルコール依存症の方が病気に対する正しい知識を学び、断酒に向けた取り組みを行なっています。それぞれテーマに沿った家庭や社会、周囲に与えた影響を振り返り、積極的に学んで回復していく患者さんの姿に、職員が励まされることも多々あります。

昨年6月1日よりアルコール依存症病棟を再稼働し一年が経過しました。様々な制限のある入院生活の中で少しでもストレスが軽減され、より開放的な雰囲気の中で治療プログラムに参加していただくため新たな取り組みとして、今年5月7日から、定期的に行っていたアルコールチェックや荷物チェックを廃止しました。今後も、患者さんに少しでも満足していただくために、多職種が知恵を出し合って療養環境を整えていきたいと思っています。

お酒をやめたくてもやめられない方、飲酒問題で困っているご家族の方、ひとりで悩まずぜひ専門スタッフまでご相談ください。どうぞよろしくお祈りいたします。